

淡田川

桜堤のあゆみ

# 第20回桜まつりを記念して



平塚市景観重要樹木

21 渋田川プロムナードプラン推進協議会

目 次

1. はじめに		
21 渋田川プロムナードプラン推進協議会会長	岸 文雄	3
2. お祝いのことば		
平塚市長	落合克宏	4
前鳥神社宮司	神代春彦	5
外務大臣	河野太郎	6
神奈川県知事	黒岩祐治	7
神奈川県議会議員	森 正明	8
平塚市観光協会会長	福澤正人	9
3. 渋田川桜堤の原点	伊藤栄雄	10
— 美しい郷土を未来につなぐために —		
4. 桜堤の概況		14
5. 桜堤のあゆみ		
5.1 草創期		19
5.2 拡充期		21
5.3 発展期		24
6. 桜まつりのあゆみ		
6.1 あゆみ年表		34
6.2 写真でたどる桜まつり		41
7. 渋田川環境		54
8. むすびに	— 渋田川桜堤のこれから —	59
編集後記		60

## 1. はじめに

21 渋田川プロムナードプラン推進協議会会長

岸 文雄

21 渋田川プロムナードプラン推進協議会には日頃より地域の皆さまはじめ、行政、企業自治会等多くの方々のご支援、ご協力をいただき誠にありがたく厚くお礼申し上げます。

お蔭さまで当協議会が渋田川堤に桜を植栽して節目の 25 年、桜まつりは第 20 回目を迎えることとなりました。そこで、これまでを振り返りまた今後を展望するため、記念誌『渋田川桜堤のあゆみ』を発行する運びとなりました。ご一読いただければ幸甚に存じます。

平成 6 年、真土連合自治会 OB が、横内排水路とそれに面する渋田川堤を開墾整備の上 113 本のソメイヨシノを植栽したのが始まりです。平成 8 年に近隣の 8 連合自治会が集結し 21 渋田川プロムナードプラン推進協議会を結成、合計 500 本の桜を植栽しました。平成 12 年には第 1 回桜まつりを開催し、現在の取り組みの形ができあがりました。

以来、桜まわりや堤の河川側を刈払機で草刈をし、また桜の消毒や刈込、不法投棄物等の処理作業を行い、その年間の集大成として毎年桜まつりを実施してまいりました。

その後も主な事業として、

平成 18 年 豊田側河川敷に建築用コンパネ 70 枚を敷き、第二ステージとして桜まつり催し物を実施

平成 21 年 草を 5cm に刻んですぐに土に還す大型草刈機フェリブームモアの導入。これにより傾斜 35 度、8m の河川側斜面の全面草刈請負が可能となり、同時に草刈作業が軽減

平成 26 年 やわら橋～鷹匠橋 3 列 90 本の桜が平塚市景観重要樹木に指定

平成 27 年 在日米陸軍軍楽隊を桜まつりに招聘。以来 4 年連続出演

平成 29 年 尾崎行雄を全国に発信する会からポトマック孫桜を譲り受け、植樹祭を実施。

鷹匠橋公園、平塚市総合公園、前鳥神社に植樹

などに取り組んでまいりました。

私たちは草刈作業のかたわら、無造作に捨てられたゴミの回収も行っております。また大雨の後には軽トラック 1 台分のペットボトル、缶、ビンなどが河川敷に流れ着き、その都度引き上げました。これらのほとんどは、知らず知らずの間に海に流れ込んでいる現状にあります。

鼻にプラスチック製のストローが刺さった亀や胃袋から大量のビニール袋やペットボトルが出てきたクジラのニュースは驚きとともに憤りを禁じえません。

私たちは「この環境 未来へつなごう 人の輪で」というスローガンを提唱していますが、ここで改めて環境問題を取り上げ議論し行動を起こさなければならないという思いを強くしています。

この先も渋田川桜堤が美しい景観を保ち、人々の笑顔があふれる憩いの場として愛され続けるように祈念するものです。

皆さま方の引き続きのご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。



## 2. お祝いのことば

平塚市長 落合克宏

第20回を迎えた桜まつりを記念し、このたび『渋田川桜堤のあゆみ』が発刊されますことをお祝い申し上げます。21 渋田川プロムナードプラン推進協議会の皆さまにおかれましては、渋田川をめぐる環境美化活動と地域の活性化にお力添えを賜り、深く敬意を表します。

渋田川の水質浄化と環境整備を目指して始められたこの活動も、皆さまの地道なご努力によって、多くの方々から愛される潤いあふれる環境がよみがえりました。ここに至るまでの幾多の困難にも力強く立ち向かい、地域の皆さまの手で自然や環境を大切に守り、美しく整えてくださったことを感謝しています。

渋田川の土手に桜が咲き揃う風景は格別で、私も毎年の桜まつりを心待ちにしています。丹精込めて育て上げられた桜は、皆さまの真摯な思いをくみ取って、誇らしげに花を咲かせ、今や市内有数の桜の名所となりました。その桜を愛でる多くの喜びあふれる笑顔は、桜の花に勝るとも劣らず輝いていて、私も含めてまつりに訪れた人たちを明るく迎え、生き生きとした活力を吹き込んでくれます。こうした人と人とのつながりや温かな交流が、まつりを一層盛り上げているに違いありません。

時代の移り変わりとともに地域のつながりが弱まり、人間関係が希薄になったと言われます。

しかし、皆さまには力と知恵を出し合い、地域を活性化させる活動を長く続けていらっしゃることを大変すばらしく思います。その意味でこの活動は、本市が目指す「地域の力」「市民の力」を活かしたまちづくりのあるべき姿をみるようで、頼もしく感じています。

皆さまが様々な地域活動に汗を流している姿を、子どもたちがまぶたに焼き付けながら育ち、やがて彼らが大人になったときに、その志を受け継いでくれるよう願っています。また、今後も多くの人を取り込みながら、心が通い合う活動を続けてくださることを期待しています。

平塚市内には恵まれた自然環境や潜在的な地域資源が豊富にあります。本市では、こうした魅力を最大限に引き出し、市民とともに磨き上げながら、平塚のイメージ向上や魅力の発信に努めてまいります。また、「子や孫へたしかな平塚をつなぐ」ために、地域社会で積極的に活躍されている方々の取り組みを、これからも支えていきたいと考えています。

結びに、貴会のますますのご発展と、皆さまのご健勝とご多幸を心から祈念し、お祝いのことばといたします。



このたび渋田川桜まつりが第 20 回を迎え、またそれを記念して『渋田川桜堤のあゆみ』の冊子が刊行の運びとなりましたこと、誠におめでたく心よりお喜びを申し上げます。

これまでの関係者の皆さまの並々ならぬご努力に、改めて感謝と敬意を表するしだいでございます。

今から凡そ二十数年前、地域の有志の方の発案で、風光明媚な渋田川堤に桜が植栽されました。そして、21 渋田川プロムナードプラン推進協議会が組織され、土手の草刈や桜の木の剪定、消毒等の管理を多くのボランティアの手で行い、今や県下でも有数の桜の名所となりました。

4 月の桜まつりには近郷近在より沢山の花見客が訪れ、また地域の伝統芸能が披露され、若者の演奏発表や地場野菜の販売等多くのお店が立ち並ぶ、大きな催しとなりました。また、お祭りの期間だけではなく、ふだんの日においても老若男女が訪れ、地域の人に心の安らぎと潤いを与えてくれているのが、この桜堤です。

この桜堤につきましては、節目ごとにそのつど鄭重に神事を執り行っていました。桜の植樹に際しては今後の順調なる生育を願って、また大型草刈トラクター導入の際には、安全なる作業を願って、祈願を執り行いました。

中でも、平成 29 年 2 月 19 日の元東京市長尾崎行雄氏のポトマック孫桜の植樹祭の折には桜堤の鷹匠橋にアメリカ大使館関係者をはじめとする多くの方の参列のもと、神事を営みました。以来、神さまのご守護と多くのボランティアの献身的なご奉仕により、いずれの桜も順調に生育していることは誠に喜ばしい限りであります。

桜の「さ」は清いとか神聖なことを表し、「くら」は坐であり場所を表します。つまり桜の木は神さまが宿る神聖な木であります。神聖な木である桜に家族の幸せや地域の発展の祈りを込めて、その下で食事やお酒を酌み交わす、これがお花見の原点とも言われています。

日本を象徴する桜を育て、花を愛でるといふ日本人の麗しい心を醸成する、地域の人々が心一つに奉仕をする、これらは IT 化が進み、やがて AI（人工知能）が世を支配する時代が到来すると言われている昨今、日本人が次代に引き継がなければならない大切なことであります。その意味からすると、21 渋田川プロムナードプラン推進協議会の現在までの活動は誠に価値あるものであります。これからの活動も地域と人とが一体となって、更に充実発展されることを願って止みません。

さまざまなこと 思い出す 櫻かな

松尾芭蕉



渋田川桜まつりの第 20 回の開催を迎え、ここに記念誌が発行されますことに心からお祝いを申し上げます。

岸文雄会長、伊藤栄雄前会長をはじめ 21 渋田川プロムナードプラン推進協議会の役員、関係者の皆さまの長年にわたるご尽力には、ただただ頭の下がる想いです。

渋田川には、流域の環境悪化が問題視されていた時期もありましたが、役員の皆さまの長年にわたる取り組みにより桜並木が整備され、折々の清掃や草刈などにもより、流域の環境も大きく改善されました。プロムナードプランは流域の環境美化・保全の面でも大きな成功例となっています。

この季節には、首都圏各地で日本人の心とも言える桜を愛でるイベントが数多く開催されておりますが、私も渋田川の桜を毎年楽しみにしており、今回も素晴らしい景色を見ることができのをお願いしております。

はじめは 113 本の苗木の植栽から始まった桜並木も現在では 500 本を超え、神奈川県内でも有数の桜の名所となりました。また、ステージでの催し物では在日米陸軍軍楽隊の演奏なども行われ、国際色豊かに盛り上げてくれています。まさに、平塚市の魅力を世界へと発信する拠点としての機能を発揮していると言えるのではないのでしょうか。

渋田川桜まつりは第 20 回の節目を迎えますが、これからも継続して活動を展開していただくことはもとより、後世に受け継ぎ、次世代への大いなる遺産としてのこしていただきたいと願うばかりです。

末筆となりますが、渋田川桜まつりとそのご関係の方々のますますの弥栄をお祈り申し上げます。



このたび「渋田川桜まつり」が第 20 回目を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

渋田川周辺は、田畑が広がり、遠くには富士山を、また近くには丹沢・大山を望む、大変風光明媚なところであり、多くの方々が、この風景を愛でながら、散歩やウォーキングを楽しんでいます。

今日の美しい渋田川の姿があるのも、環境の悪化を憂え、長年にわたり清掃活動や草刈りを続けられるとともに、土手の整備や桜などの植栽に取り組んでこられた多くの地域の方々のご熱意とご尽力の賜物です。



1 回目の 113 本の桜の苗木にはじまった植樹は、剪定や消毒、草刈りなどが続けられる中で、今では見事な桜並木になり、例年、満開の桜の下で開催される「渋田川桜まつり」に訪れる方々は 10,000 名を超え、大変な賑わいとなっています。

県では、人生 100 歳時代が到来しようとする中であって、未病を改善し、健康になっていただくためには、皆様の笑いが広がる充実したコミュニティが必要と考え、新たに「コミュニティ再生で笑いあふれる 100 歳時代」の実現を最優先の政策として掲げました。この実現に向けては、コミュニティの核である地域の皆様の力が、今後ますます重要なものとなります。

こうした中、地域の皆様の力を結集して開催される「渋田川桜まつり」を始めとする様々な取り組みは、渋田川周辺地域はもとより、湘南地域、ひいては神奈川県全体の活性化や魅力向上につながる大変重要なものと考えております。

結びに、「渋田川桜まつり」のさらなるご発展と、21 渋田川プロムナードプラン推進協議会をはじめとする関係の皆様のもすますのご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



『渋田川桜堤のあゆみ』の発刊を心からお喜び申し上げます。

21 渋田川プロムナードプラン推進協議会の皆さまにおかれましては、渋田川沿いに続く美しい桜並木と、豊かな自然あふれる景観の創造・維持のため、長年に亘りさまざまな活動に取り組まれてきました。伊藤栄雄名誉会長をはじめ、岸会長、協議会の皆さまのご尽力に心から敬意を表します。

21 渋田川プロムナードプラン推進協議会の皆さまが渋田川に桜の苗木を植えられてから、およそ 25 年の歳月が経ったと伺っております。

かつて、高度経済成長期には、急激な人口増加や周辺工場からの排水、不法耕作や不法投棄などを原因とする渋田川流域環境の悪化が課題とされていました。

そのような中、地元有志の方々により、「きれいな川」を取り戻し、桜を植えて美しい景観をよみがえらせるための活動が始まりました。その活動の輪の広まりとともに、私も一緒になって、年を重ねるごとに渋田川沿いの環境美化を進め、現在では美化ボランティア団体や地元自治会による一斉清掃や土手の草刈、植栽が年に数回行われています。

そして、見事に渋田川流域の豊かな自然環境がよみがえり、近年は毎年、満開の桜並木のもと、渋田川桜まつりが盛大に開催されるようになりました。

このことは、協議会の皆さまをはじめとする渋田川流域地元住民の皆さまの、長年にわたる地道なご努力が実を結んだものであり、改めましてそのご尽力に感謝を申し上げますとともに、今後とも、皆さまの渋田川の豊かな自然への深い愛情をもって、ますますご活躍されることを期待しております。

県議会といたしましても、この美しい桜並木に代表される渋田川沿いの自然環境を守っていくことができるよう、みどり豊かで人に優しい環境づくり、地域づくりに一層力を尽くしてまいります。

そして、自然豊かで美しい私たちの郷土・神奈川、郷土・平塚の創造を支援してまいり所存でございます。

結びに、21 渋田川プロムナードプラン推進協議会のさらなるご発展と、皆さまのますますのご健勝、ご活躍を心から祈念いたしまして、私のお祝いのことばとさせていただきます。



21 渋田川プロムナードプラン推進協議会主催の桜まつりが、第 20 回を迎え開催されますことを心からお喜び申し上げますとともに、この渋田川の環境整備・改善や桜木の植栽など流域の景観美化向上に努めてこられました会長をはじめ役員並びに会員、地域自治会、ボランティア団体、関係皆さまの多年にわたるご苦労・ご尽力に対しまして、深く敬意を表する次第です。

平成初期より、この地を故郷とする地元の有志による一斉清掃や草刈、桜木 113 本の苗木を植えることから流域の環境美化が始まり、平成 8 年には連合自治会も加わり、さらに約 10 万㎡の広さに約 500 本を植樹し、維持管理を目的に協議会が組織されたと聞いております。その活動が評価され、平成 26 年 12 月には約 90 本の桜並木が市の景観重要樹木にも指定され、さらに平成 29 年 2 月にはワシントンからの孫桜を譲り受け、日米友好・恒久平和と環境保全及び平塚市民の絆が深まることを願い植樹されました。

そして、この桜まつりは、平成 17 年より始められたライトアップや地元中学生や高校生によるブラスバンド演奏や踊り、郷土芸能の催し、多彩なライブイベントや地元団体による模擬店なども手伝って、地域住民をはじめ平塚市全域から大きな関心を集めるに至り、今日では延べ約 5 万人が訪れ見物客と桜で埋め尽くされております。また、式典には多くの団体や神奈川県知事をはじめ大勢の関係者が出席される一大行事に発展してきております。

本市の観光振興の一翼を担う平塚市観光協会としましても、はじめの頃より微力ながらご支援をさせていただいておりますが、地域の春を彩る桜の名所として知名度を上げ、本市の観光スポットとして認知され、広く市民に感動と安らぎを与えていただいておりますことに感謝をいたしております。

これからも美しく豊かな自然環境を保全し、郷土愛を育むまちづくりに貢献いただきますようお願いし、この桜まつりを中心とする活動が継続され、尚一層発展しますことをご期待申し上げ、お祝いのご挨拶といたします。



### 3. 渋田川桜堤の原点

— 美しい郷土を未来につなぐために —

21 渋田川プロムナードプラン推進協議会

名誉会長 伊藤 栄雄

この渋田川に桜を植えて今年で25年となりました。初めに植えたのは平成6年の春浅い3月。113本の苗木は目通し5cmにも満たない、見るからに細く頼りないものでした。しかし、現在、皆さんの献身的な努力が実り、毎年、見事な花を咲かせてくれます。

今回、桜まつり20回を記念して冊子を発行するにあたり、桜堤がどのような経緯でできたのかを掲載したいとお話がありましたので、当時は振り返り、少し述べさせていただきます。



\*\*\*\*\*

今から20数年前、この土手は雑草や蔓、女竹などで覆いつくされ、周辺にはごみに加え車やバイク、家電製品といった大型の不法廃棄物が散乱し、とても人が散歩できるような環境でなく、荒れた状況でした。

私が子どもの頃の川はとてもきれいでした。橋の上から川面を眺めるとハヤ、ウグイ、アユ、エビ、ナマズなどが沢山泳いでいるのが見え、子どもたちの間でソーメンと呼んでいた鰻の稚魚も列をなして泳いでいたものです。

しかし、その綺麗な川も戦後になると、川の周辺に住宅が建ち人口も増えて、高度経済成長期の昭和40年後半頃になると、生活用水や工場からの排水が流れ込み、次第に汚れが目立つようになってきました。

このままでは川はどんどん汚れ、その結果、周辺に住む人々の気持ちも荒んで、地域の安寧上も良いことはないのではないかと、次第に気にするようになっていきました。

そして平成の始め頃のある日、やわら橋の近くを歩いていた時のこと、奥の荒れた竹藪の方から歌声が聞こえてきました。気になって次の日も行って見たところ、やはり聞こえてきました。

現在のやわら橋は立派な赤い橋になっていますが、当時は幅が30cmほどのやっと人が一人通れるほどの木橋でした。思いきってその橋を渡り藪を掻き分けて進んで行ったところ、若い青年が数人楽器を持って歌っているのです。

横内団地には当時から東南アジア系の方々が多く住んでいましたが、どうもその人たちが歌っているように思われました。故郷を離れて暮らす中で、故郷を思い懐かしみ、仲間と歌い励まし合っているのだと思いました。

このことから、この土手を整備し、桜を植え、地域の人々が憩えるような場所にすれば、彼らを含めた交流の場にもなり、環境も凄く良くなるのではと確信するに至りました。

ちょうどその頃、真土の連合自治会長を引き受けることになり、市の会合で磯部録郎中原町内会（自治会）連合会長や南原の原喜一連合会長に知己を得ました。そこで、土手で経験したことを話したところ、二人とも非常に興味を示し、一刻も早くことを進めた方が良いと背中を押してくれるようになりました。お二人は幼馴染みで、しかも終戦後数年間シベリアで抑留された経験を持っていましたので、ことさら異国で暮す人々の寂しさに共感してくれたものと思います。真土の連合副会長も即座に賛同してくれました。

いざ実施ということになって市に相談しましたが、川に木を植えるのは色々な制約があるとのことでした。そこで県に問い合わせたところ、その規制は3年前に解除になったとの回答でしたので、再度市に働きかけ了解を得ました。

数日後に市の土木部長が部下2名を連れて来訪し調査を実施してくれました。その結果、やわら橋～富士見橋まで300mあり、10mおきに植えるとすると、3列で113本の桜の苗木が必要であるということになりました。時を経ずして市の職員が113本の杭を持参し、適当な間隔に打ちこんでくれました。連合自治会長を始め、その場に立ち会った地域の人々がここに桜を植えるということを実感した瞬間でした。

次は桜の苗をどうするのが喫緊の課題になりましたが、市に相談すると、日本さくらの会の会長（小松製作所の会長）が苗を寄付してくださるということになりました。

ところが、その苗は大変細い苗で、数年のうちに咲くような太さではありませんでした。そこで、丁重にお断わりをし、面識のある千葉県銚子市の植木屋に相談したところ、時期が少し遅く、113本の苗を確保するのがやっとの状況でしたが、やがて届いた苗は目通し5cmほどの立派なものでした。

苗も揃い、いよいよ植樹となりましたが、その時はまだ土手は草ぼうぼうの状態でしたので、延べ500名を動員し整地を進めるとともに、近隣のスタンド等からドラム缶20缶ほどの排油を集め約2週間ほど野焼きを実施しました。

今なら消防署の許可もなかなか下りないでしょうが、当時は比較のおおらかな時代でしたので、整備のいきさつや安全対策をお話しし何とか土手を綺麗にすることができました。

もっとも、燃やした灰カスが風に乗って中原の方まで跳んで行き、苦情を受けた事もありましたが、丁寧に説明することで理解を得、以後苦情は一件もありませんでした。

3月に竹を燃やすと地面の下の新芽も一斉に除去することになり、春になっても芽が出ないというのを後で知りましたが、結果、土手は見事によみがえりました。

苗を植え付ける段階では、かなりの深さまで土手を掘る必要がありますが、鍬では全く歯が立たず、地元の植木屋から重機を借りて事なきを得ました。

そして、平成6年3月23日、植樹の安全と苗が無事に根付くことを願い、前鳥神社の宮司にお祓いをお願いし事は成就しました。

計画を実行に移していく段階で様々な意見があったことは承知していますが、これまでの数千年、数万年続いた渋田川という財産を未来につなぎ、人の輪で環境を育てていくためには、小異を残し大同に付くことが大切と考えました。10年後、20年後の桜が地域の人にきっと笑顔をもたらすであろうという思いで全員頑張ったことが、今まさにここに結実したのでした。

価値観が多様化し少子高齢化が加速している世情の中で、このように毎年隆盛しつつ桜まつりが20回目を迎えられたことは地域の誇りであります。

桜まつりは世代を超えて地域の人々が協力し合う大切さを教えています。「祭りを通じてこの地域の老・壮・青が世代を超えて一つになり、地域社会に貢献することの大切さ」を財産として継承してほしいと願ってやみません。

あらゆる組織のリーダーは壮・青世代でなくてはなりません。体力・知力の劣る老世代では変革を実行し、次の時代を切り開いていくことが出来ないからです。しかしながら老世代には「知恵と経験」（老馬の智）があります。

「散る桜 残る桜も 散る桜」の句のように桜は咲けばいつかは散ります。しかし、根（老）・幹（壮）・枝（青）がしっかりしていれば、翌年は必ず花が咲きます。壮・青世代は志を抱き覚悟を持ってください。これ以外に未来を作り出すものはありません。老世代も超高齢化社会を迎えている今日の日本では「老兵は死なず、ただ消え去るのみ」というわけには行きません。「老兵は死なず、次世代の礎のため雑兵とならむのみ」

\*\*\*\*\*

## ■ 渋田川土手開拓に当初から尽力した仲間

渋田川桜堤が朝夕の散歩や散策に多くの人が行き交う憩いの場となるまでには、荒廃した土手の再生に取り組んだ先達の献身的な努力がありました。

その再生作業に当初から尽力した伊藤芳雄、成瀬英夫は雑草の成長期には富士見橋以北を人気のない早朝から自主的に刈払い機を駆使し、草刈を実践し現在の定期的な草刈につながる環境保全に努力しました。



今でこそ刈払機等は協議会で揃えていますが、当時は機材を所有している人が自発的に作業に参加するスタイルが一般的で、常に全力で雑草に立ち向かう進藤基司も中心的存在の一人でした。

一方、人力での整地が不可能と思われる、保健センター東堤防に覆いつくされた女竹、雑草の刈り込み作業には、自前のトラクターを持ち込み奮闘した伊藤恭一郎、成瀬國光。大型機械導入のきっかけとなりました。



さらに桜の開花時期を終える頃になると、もの寂しさを感じた妹尾實は富士見橋を中心に 35 度の斜面にアジサイを自力で植栽し育成に励んだことから、渋田川全体への植栽気運が高まり 3300 株までに増殖され、散策路として充実してきました。



### ■雑木(ざつぼく)処理

平成6年に横内排水路とそれに面する渋田川に113本の桜を植栽しましたが、そこに至るまでに雑草の刈り取りや、大型家電等不法投棄物の除去等に加えて雑木の処理の作業がありました。



ここで中心的に活躍したのが、真土の樵と異名を取る森下正雄です。

森下は農機具を扱う金物店の経営者で、平塚全域をセールスしていましたが、農家ばかりでなく、一般家庭でも台所の包丁砥ぎなどのサービスを気さくにやっていたので、奥さん方の人気者でした。

商売柄刃物の扱いには慣れており、又、身が軽いことから、庭木の枝打ちなどは得意で、雑木処理はお手の物です。

当時の渋田川河川敷は、雑草や蔓、竹等に加え雑木が280本~300本ほど生えていました。雑木はオニグルミやエノキ、ヤナギなど太い物から細い物まで様々でしたが、その中でもオニグルミは実を付ける頃に毛虫が異常発生するので、放っておけない存在でした。

森下は太い木を伐採する場合は、命綱を手際よく枝にかけ、手ごろな重さのチェーンソーを巧みに操作して上の方から切っていきます。木の下では、数名の仲間が、軟弱な土壌の斜面で足を踏ん張りながら、落ちて来る枝を集め、堤防の上に引き上げ、適当な長さに切断して軽トラックに載せていきました。この繰り返しを10日ほど続けて作業は終了しました。

この時期は予算が全く無かったので作業中は手弁当で、使用した機材等も全て自前の物でした。

## 4. 桜堤の概況

### 渋田川について

- 1) 源流：伊勢原市西富岡の渋田山（標高 360m）盛徳寺裏辺りで確認できる（伊勢原市上糟屋 2145）
- 2) 全長：14.3 km（鈴川合流まで）  
流域面積：49.43 km<sup>2</sup>
- 3) 合流：笠張川、歌川
- 4) 主な流路  
伊勢原市西富岡・渋田山⇒高部屋小学校東⇒咳止め地藏西⇒東海大学病院南⇒大田小学校東⇒平塚市大島・土安橋で歌川・笠張川と合流⇒鷹匠橋⇒新大縄橋⇒立堀橋⇒東雲橋⇒平塚市南原で金目川・鈴川と合流⇒花水川⇒相模湾
- 5) 管理：神奈川県が管理する 2 級河川



渋田川源流付近

### 桜堤の維持管理

平成 8 年近隣の連合自治会と単位自治会が 21 渋田川プロムナードプラン推進協議会を設立し桜堤の環境整備・維持管理を行っています。

- 1) 現在の組織団体 <7 連合自治会と 2 単位自治会>

横内連合自治会  
横内団地連合自治会  
真土連合自治会  
東中原会連合自治会  
伊勢山自治会連合会（平成 14 年加入）  
中原町内会（自治会）連合会  
豊田地区自治会連絡協議会  
下島自治会  
大島自治会

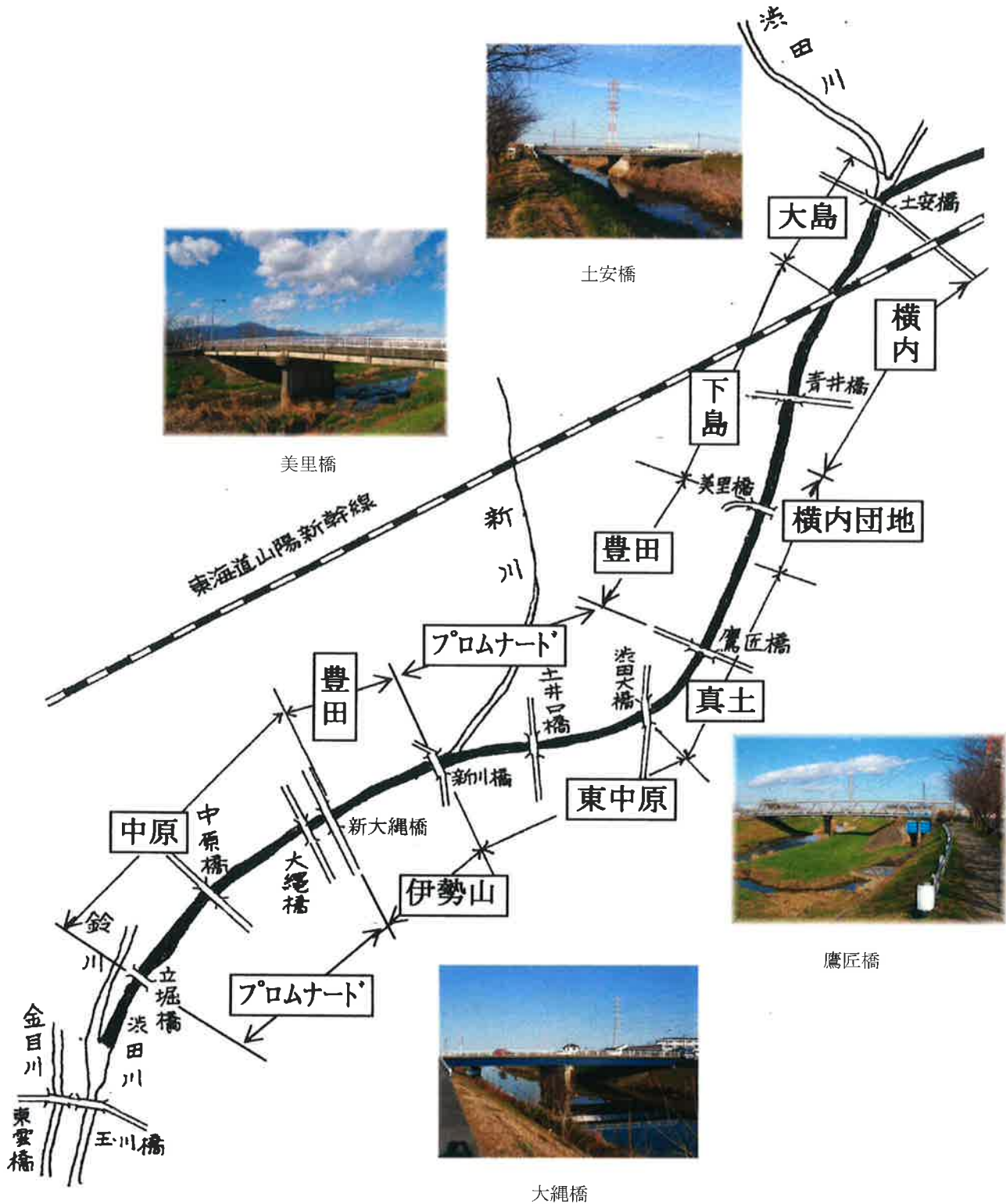
- 2) 基本理念

「渋田川の自然環境を守り育て次世代に引き継ぐ」

- 3) 管理範囲

上流の横内・大島地区の土安橋から下流は中原地区の立堀親水公園の立堀橋までの約 4.5km の河川兩岸をブロック分けし、各連合自治会等が担当。  
具体的には <次ページ；渋田川水系略図>を参照。

渋田川水系略図 (各地区担当区域図)





## 植栽樹木と本数

### 1) 桜の植栽

平成6年に113本のソメイヨシノを植栽。その後9年間植栽を継続し、現在の本数は523本。

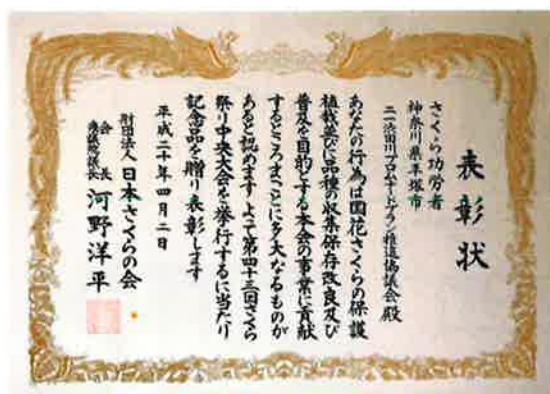
### 2) アジサイの植栽

平成8年に150株を植栽し、その後9年間植栽を継続し総株数は3300株。  
現在の全体株数は1,359株（統合株もあり）

## 表彰歴

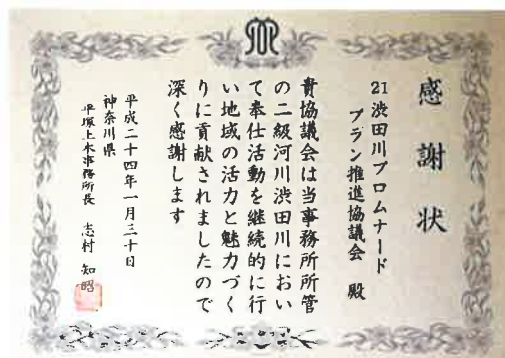
### 1) 表彰状

- ①平成12年6月7日 神奈川県湘南地区行政センター所長
- ②平成16年3月24日 財団法人 日本さくらの会会長
- ③平成20年4月2日 財団法人 日本さくらの会会長



## 2) 感謝状

- ①平成 14 年 4 月 1 日 平塚市長
- ②平成 24 年 1 月 30 日 神奈川県平塚土木事務所長



## 平塚市景観重要樹木指定

平成 26 年 12 月 1 日 平塚市より景観重要樹木第 4 号として「浜田川サクラ並木」ソメイヨシノが指定されました。

<やわら橋から鷹匠橋間の桜堤 3 列 90 本が対象>



景観重要樹木プレートと桜堤

## 導入機械

車両番号	機械名	購入年	台数
1号車	(草刈機) アテックス刈馬王	平成19年9月13日	1台
2号車	(草刈機) アテックス刈馬王	平成26年8月13日	1台
3号車	(草刈機) 円盤カッター	無償提供	1台
4号車	(草刈機) ハンマーナイフカッター	無償提供	1台
5号車	(草刈機) 円盤カッター	無償提供	1台
6号車	(草刈機) 円盤カッター	無償提供	1台
平塚市 4686	(大型草刈機) フェリブームモア	平成21年3月12日	1台
	刈払機	平成27年3月5日 10台購入 6台無償提供	16台

## 覚書

- 1) 平成6年4月18日 平塚市と真土連合自治会  
「渋田川横内排水路の植栽について」
- 2) 平成10年3月12日 平塚市と21 渋田川プロムナードプラン推進協議会  
「渋田川の堤防裏法部の貸借等について」

## 助成金

- 1) 環境事業団 地球環境基金 <総合環境保全活動事業>  
・平成12年から平成14年
- 2) 財団法人自治総合センター <コミュニティ助成事業>  
・平成15年
- 3) 財団法人かながわトラスみどり財団 <ふれあい緑化事業>  
・平成16年

## 会報発行

平成10年4月1日に第1号の会報「推進協議会報」を刊行。

以降、活動内容を広く地域に広報するため、原則年2回（1月、7月）発行。

## 5. 桜堤のあゆみ

### 5.1 草創期 1993(平成5)年～1997(平成9)年

平成4～5年当時の渋田川は、川の汚れも目立ち、土手は雑草や竹が生い茂り、大型の不法投棄物が至る所に散乱し、人が歩ける状態ではありませんでした。

そこで、地域の有志が集まり、渋田川の再生について話し合いを持ちました。「渋田川はふるさとの象徴であり、その景観の中心には富士がある。富士には桜が付きもの」ということで、渋田川にソメイヨシノを植栽することで一致しました。

真土連合自治会では、1993(平成5)年に100名規模の「真土桜堤協力会」を結成し、「桜並木造成について」市に陳情書を提出する一方で、不法大型廃棄物の撤去や堤の開墾を進めていきました。翌年1月に市の回答を受け、3月には地鎮祭の後、消防第10分団等の協力を得ながら、背丈以上の竹や雑草の野焼きを実施し、横内排水路とそれに面した渋田川堤に113本のソメイヨシノを植栽しました。4月には市と覚書を締結し、同月には早くも「植樹記念花見の会」を開催しています。

その後、近隣の連合自治会(大神、横内、横内団地、真土、東中原、中原、豊田、城島<大島 下島>の8連合)に呼びかけ、1996(平成8)年1月に「渋田川の自然環境を守り育て次世代に引き継ぐ」ことを基本理念とした「21 渋田川プロムナードプラン推進協議会」を発足させました。

21 渋田川プロムナードプラン推進協議会の整備区域は、土安橋～立堀橋の約4.5kmの兩岸を右岸6ブロック、左岸6ブロックに区分し、各連合自治会等が担当することとしました。

1997(平成9)年には会則を定め、また、趣意書及び賛同を募る署名を回覧し、多くの賛同を得ました。

その上で、一口1万円の協賛金を集め、各連合自治会からの負担金と併せてその運営資金として、本格的な活動を開始しました。ブロックごとの草刈も開始し、また、桜の植栽も計画的に実施していきました。

#### 1993(平成5)年

4月 ・真土桜堤協力会発足

9月 ・桜並木造成について市に陳情書<真土連合自治会>

#### 1994(平成6)年

1月 ・市より陳情書の回答

・平塚市緑化協力団体決定通知書<真土連合自治会緑化部>



開墾前の土手



河原からごみの引き上げ



野焼き



苗木の植栽

- 3月 ・地鎮祭<神代宮司>
- ・野焼き<第10消防分団協力>
- ・桜の苗木植樹 113本
- ・緑化協力金贈呈<県緑化推進委員会>
- ・平塚市緑化団体長会議出席
- 4月 ・市との覚書締結<横内排水路の植栽について>
- ・植樹記念花見の会

### 1996(平成8)年

- 1月 ・磯部録郎 伊藤栄雄 小林長治の3名が発起人となり各連合自治会に呼びかけ
- ・「21 渋田川プロムナードプラン推進協議会」発足
- 参加連合自治会 大神 横内 横内団地 真土 中原 東中原 城島 豊田
- 2月 ・運営資金として各連合会から2万円
- 3月 ・「21 渋田川プロムナードプラン推進協議会」正式名称決定
- 4月 ・立堀親水公園～笠張川上流点まで現地調査
- 5月 ・区域区分(右岸6ブロック 左岸6ブロック)
- 豊田桜の会発足

### 1997(平成9)年

- 1月 ・97 ひらつか環境フォーラム参加
- 4月 ・会則制定
- ・視察研修<多摩森林科学園>
- 5月 ・各地区草刈を開始<年3回を目標に>
- 11月 ・趣意書・署名回覧
- ・協賛のお願い 1口10,000円



植栽直後の土手整備

## 5.2 拡充期 1998(平成10)年～2005(平成17)年

1998(平成10)年からは会報も原則年2回発行することとし、広く地域に活動内容を周知していくこととしました。

この時期、環境事業団への助成金の要望書提出や、先見事業を展開している地域の視察、自然環境保護団体等との交流も活発化し、活動の幅を広げて行きました。

計画的に植栽した桜も順調に生育し、2000(平成12)年には、2000年記念の第1回桜まつりを開催するに至りました。6,000人ほどの人出があり、渋田川の桜が広く平塚市民に知られるきっかけとなりました。

その後、地球環境基金助成金を受け、また、みどりの功労団体として湘南地区行政センター所長表彰をはじめ、市制70周年記念式典での表彰を受けるなど、対外的にも推進協議会の活動が評価されるようになってきました。

2001(平成13)年の第2回桜まつりには、新しい橋(中橋)や催しもの用の固定ステージ(第一ステージ)を披露し、翌々年からはアジサイの植栽も開始しました。2005(平成17)年段階では、桜500本、アジサイ3,300株を数えることとなりました。



中橋の設置



アジサイの植樹

### 1998(平成10)年

- 3月 ・桜植栽 300本
  - ・平塚市と覚書締結<渋田川の堤防裏法部の貸借について>
- 4月 ・会報創刊
  - ・関島工業(株)に感謝状贈呈
  - ・秦野千村の八重桜(カンザン)視察
- 11月 ・環境ミニフォーラムに参加

### 1999(平成11)年

- 1月 ・環境事業団へ助成金要望書提出
  - ・平塚市緑化協力団体登録
- 2月 ・視察研修(下賀茂と河津桜)
- 11月 ・視察研修(舞岡ふるさと村小川アメニティー)
  - ・みどりの実践団体交流会

## 2000(平成 12)年

- 2月 ・ 第1回桜まつり実行委員会開催
- 3月 ・ 幹道52号線沿いに桜20本植栽
- 4月 ・ 2000年記念 第1回桜まつり開催
  - ・ 地球環境基金助成決定
- 6月 ・ みどりの功労団体として湘南地区行政センター所長表彰
  - ・ 視察研修（アジサイと地球博物館）
- 7月 ・ 台風3号襲来で桜倒木被害
- 11月 ・ みどりの実践団体交流会
- 12月 ・ 啓発用パンフレット発行

## 2001(平成 13)年

- 4月 ・ 第2回桜まつり開催
  - （中橋完成 第一ステージの設置）



第一ステージの完成

## 2002(平成 14)年

- 1月 ・ 視察研修（爪木崎のスイセン）
- 4月 ・ 市制70周年式典で平塚市長より感謝状授与
  - ・ 真土桜堤協力会会則制定
  - ・ 第3回桜まつり開催
- 6月 ・ 伊勢山自治会連合会が協議会に加入
- 7月 ・ 納涼会開催

## 2003(平成 15)年

- 3月 ・ 伊勢山地区及び4地区にアジサイ1,300株
    - ・ 真土地区にシダレザクラ40本植栽
  - 4月 ・ 第4回桜まつり開催
    - ・ 緑化まつりに展示参加
  - 10月 ・ 視察研修（小石川後楽園 浜離宮）
    - ・ みどりの実践団体交流会
  - 11月 ・ 真土小4年総合学習対応
    - ・ これからの湘南のみどりを考えるフォーラム
- 自治総合センター コミュニティ助成事業助成金決定



大きく成長したしだれ桜

## 2004(平成 16)年

- 2月 ・ ライトアップ真土地区実行委員会発足
- 3月 ・ アジサイ500株植栽（横内 伊勢山 豊田）
  - ・ 日本さくらの会表彰
- 4月 ・ 第5回桜まつり開催
  - ・ 視察研修（多摩森林科学園 高尾山 高幡不動尊）

7月・協議会活動を継続発展させるための小委員会開催

10月・みどりの実践団体交流会

○みどり財団 ふれあい緑化事業助成金決定

### 2005(平成17)年

3月・台風22号被害 桜8本補植

4月・ライトアップ開始(真土地区)

・第6回桜まつり開催

6月・10周年記念事業検討委員会発足

10月・視察研修

(大船フラワーセンター 三溪園 舞岡ふるさと村)

・みどりの実践団体交流会

11月・渋田川河川視察

12月・7地区自治会連合会長との懇談会

(桜500本 アジサイ3,300株報告)



ライトアップの開始



土手を彩るいろいろな種類のアジサイ



### 5.3 発展期 2006(平成 18)年～2019(平成 31)年

2006(平成 18)年には、「21 浜田川プロムナードプラン推進協議会 10 周年記念」と冠して、第 7 回桜まつりを開催しました。

同年の総会で役員改選が行なわれ、小林長治初代会長(豊田地区)から 2 代目の伊藤栄雄会長(真土地区)に引き継がれました。

2007(平成 19)年には、草刈を安全にかつ効率的に行うために、キャタピラー草刈機を購入するとともに、第 7 回桜まつりでは、豊田側河川敷に第二ステージを設置して、参加団体のパフォーマンスをスケールアップしました。

浜田川桜堤の改修補強工事や倒木の処理、補植等も適宜実施し、また、備品倉庫も設置するなど、プロムナード(みどりの散策路)としての景観の整備や安全面の確保にも万全を期してきています。

2009(平成 21)年には、推進協議会会員の高齢化への対応と、さらなる草刈の安全と効率化を図るために、アメリカのメーカーに特注し、大型草刈機(フェリブームモア)を価格 1,100 万円で購入しました。以後、手作業でやっていた草刈の効率が格段にアップし、草刈の回数が増え、堤の景観が確実に良くなったことは言うまでもありません。

2008(平成 20)年までは、県の草刈請負面積は 64,920 m<sup>2</sup>でしたが、この年から 93,930 m<sup>2</sup>と 45%増加しました。

2011(平成 23)年の東日本大震災に際しては、第 12 回桜まつりを、光や音を制限してチャリティーまつりとして実施し、義援金 26 万円を寄付しました。

2012(平成 24)年には、県平塚土木事務所より地域の活力と魅力づくりの実績を高く評価されて感謝状を授与され、さらには、浜田川桜まつりが平塚の観光名所として知名度を上げ、バスツアーが訪れるまでになりました。



2014(平成 26)年の総会(真土、横内、横内団地 豊田、中原、東中原、伊勢山、大島、下島の 7 連合・2 単位自治会の構成)で役員改選が行なわれ、第 3 代岸文雄会長が選任されました。

同年、やわら橋～鷹匠橋堤防 3 列 90 本の桜が「平塚市景観重要樹木指定」を受けました。景観樹木指定は、21 浜田川プロムナードプラン推進協議会が草創期に目指した、富士を中心として桜や低木で浜田川堤の景観を整えるという目的が丸ごと評価された結果であり、長年の努力が報われたものとなりました。

2015(平成 27)年に続き翌年もライトアップ用の電線等が盗難に合うなど不幸な出来事もありましたが、協議会の活動は揺るぎなく続き、2016(平成 28)年には、桜まつりのメイン会場の第二ステージに雨避け用の大型テントを設置し、また、より安全に事業を展開するため、生活補償保険や動産総合保険など 4 種の保険に加入しました。

2017(平成 29)年にはポトマックの孫桜を寄贈され、平塚市総合公園、前鳥神社及び鷹匠橋公園に記念植樹を行いました。

2018(平成 30)年段階で、浜田川桜堤の桜は 523 本、あじさいは 1,359 株(何株かが合わさって大きな株になったり、枯れてしまったりして、植栽時より株数は減少)を数えるようになりました。

## 2006(平成 18)年

- 3月 ・豊田地区ライトアップ開始
  - ・さくら祭り中央大会で真土桜堤協力会表彰
  - ・第二ステージ設置
- 4月 ・第7回桜まつり開催<推進協議会 10周年記念>
- 5月 ・かながわトラストみどり財団湘南地区協議会総会に参加
- 6月 ・会則改正<平成 19年 4月施行>
- 7月 ・役員改選<伊藤栄雄会長就任>
  - (横内 真土) (中原 東中原 伊勢山) (豊田 大島 下島) の3グループで会長持ち回りに
- 10月 ・みどりの実践団体交流会参加
- 11月 ・視察研修<歴史民俗博物館 成田山新勝寺 航空博物館>

## 2007(平成 19)年

- 4月 ・第8回桜まつり開催
- 6月 ・渋田川水防倉庫完成
- 9月 ・アテックス刈馬王購入 40.5万円
  - ・視察研修 (巾着田 長瀬)
  - ・湘南里づくりワークショップ参加
- 10月 ・茅ヶ崎萩園地区桜と萩を育む会参加
- 11月 ・県自治基本条例ワークショップ参加
- 12月 ・渋田川桜堤整備事業記念碑設置



## 2008(平成 20)年

- 2月 ・金目川水系流域フォーラム参加
  - ・会則改定 (会計年度変更)
- 3月 ・真土側スロープ完成
- 4月 ・日本さくらの会表彰
  - ・第9回桜まつり開催
- 6月 ・豊田側ガードレール補強工事
  - ・真土側機械収納庫周り補強工事
- 10月 ・視察研修 (花の都公園 西湖いやしの里根場)
  - ・湘南里川づくりクリーンキャンペーン参加
  - 県の草刈請負面積 64,920㎡



真土側のスロープ完成



桜の消毒

## 2009(平成 21)年

- 1月 ・茅ヶ崎桜会植栽指導
- 3月 ・フェリブームモア購入 神事 試運転
- 4月 ・第10回桜まつり開催
  - ・フェリブームモア車庫作成
- 6月 ・桜まつり写真展 (市役所市民ホール)
- 10月 ・視察研修 (三島 伊豆 修善寺)
  - ・トラストみどり視察研修 (真鶴)
- 11月 ・トラストみどり里山セミナー
- 12月 ・渋田川水質検査見学

○県の草刈請負面積 93,930 m<sup>2</sup>に増加



市役所での写真展

### ■大型草刈機とともに

「ザザーッ」と小気味好い音を立てて今日も渋田川のどこかで大型草刈機による草刈が行われています。草刈機を操作するのは鈴木光男と山口昭二、誘導は岸文雄のトリオ。鈴木は自動車修理会社OBで今回の草刈機導入にあたって大型特殊免許を取得しました。山口は鈴木と同級で一緒に桜管理をしており息はぴったりあっています。

大型草刈機フェリムーブモアは平成21年3月12日導入後今年でちょうど10年になりました。

渋田川の河川側斜面は35度、8mありますがこれを両岸で6.8km、年2~5回大型草刈機で刈り取っています。刈払い機で手刈りするのはいくぶんきつい作業なので大型草刈機の導入は必須のものでした。そこで農機具メーカークボタに依頼して何度か試作してもらいましたが納得のいくものではありませんでした。

そうした中、茨城県龍ヶ崎市で使用している大型草刈機の情報が入り、見学の後、導入の運びとなりました。ただし、アームのサイズがこれで良いのか問題となり検討の結果トラクター本体が250馬力なので特注であと1mアームを伸ばすことが可能であることがわかり、解決しました。



鈴木光男 山口昭二

ただし、それでも河川側斜面 6.5m までの刈り取りが限界で、残りは刈払い機で手刈りすることになりました。結果、県砂防部との協議会全体の草刈委託契約面積はそれまでの 4.2 万㎡から 11.4 万㎡に大きく増えました。

現在全体で大型機による草刈 40 日、河川敷の下方を中心とした仕上げの手刈り各地区合計 30 日約 1000 人で草刈りを実施しています。

大型草刈機導入の結果として

- ①カッターで草を 5cm に刻みすぐに土に還るリサイクルできること
- ②河川側斜面 35 度の草刈りを人がやらなくてすむこと
- ③「②」の効果で各地区高齢化対策になっていること
- ④堤防の草刈りにより防犯やゴミの不法投棄防止 等

にもおおいに役立っていることがあげられます。

大型草刈り機のサイズは幅 2.5m、長さ 6m、高さ 3.8m あり置き場所が大きな課題となり、いろいろな場所をあたってみましたが適当なところがみつからず、当時の事務局担当で現会長の岸文雄宅の庭に置くことになり車庫をつくることになりました。もともとあった乗用車のガレージを上を持ち上げビニールハウスの鉄骨を継ぎ足しベニヤ板に鉄板を張り合わせて屋根としました。みんなの工夫でお金をかけずにできあがりその後の台風でもびくともしていません。



今後の課題としては①運転者～誘導の交代要員の確保 ②大型草刈機のメンテナンス及び草刈機そのものの更新準備があります。

## 2010(平成 22)年

1 月 ・会報 16 号発行 横書き形式に変更

・金目川水系フォーラム参加

4 月 ・第 11 回桜まつり開催

6 月 ・湘南里づくりキャンペーン参加

・タクシー強盗事件捜査協力

10 月 ・視察研修（富士山周辺）

○大型草刈機稼働 延べ 29 日 各地草刈 延べ 25 日 参加延べ 920 名

## 2011(平成 23)年

1 月 ・東電南側シダレザクラ 2 本補植

3 月 ・東日本大震災（11 日）

4 月 ・第 12 回桜まつり開催（光や音を自粛 災害義援金募金 26 万円）

10 月 ・視察研修（三嶋大社 柿田川 伊豆長岡 沼津）

・トラストみどり財団視察研修

○大型草刈機稼働 延べ 28 日 各地草刈 延べ 25 日 参加延べ 920 名

○真土地区草刈（真土桜堤協力会 87 名）

・草刈・剪定 年 6 回 ・横内排水路の草刈 清掃 年 3 回



真土桜堤協力会

## 2012(平成24)年

- 1月 ・サザンカ 30 本補植
- ・ 県平塚土木事務所より感謝状授与
- 3月 ・桜 13 本補植
- ・ 堤防割れ目補修
- ・ 湘南めぐりバスツアー327名 渋田川桜堤に来訪
- 4月 ・第13回桜まつり開催
- 9月 ・富士見橋第2倉庫設置
- 10月 ・視察研修(多摩森林科学園 高尾山)
- ・ 豊田側倉庫設置
- 11月 ・東電南側シダレザクラ補植 サザンカ 10 本補植

○豊田地区草刈(豊田桜の会 60名)

美里橋～鷹匠橋右岸 新川橋～新大縄橋右岸 年5回実施



豊田地区の草刈



桜まつりでの畳干し

○横内地区草刈(横内プロムナード協力会 横内連合自治会 水利土木組合 生産組合)

土安橋～青井橋・美里橋の中間左岸 笠張川六兵衛水門～土安橋左岸両面 右岸片面  
年2回



横内地区 青井橋付近



新幹線ガード付近での草刈

## 2013(平成 25)年

2月・鷹匠橋碑 灯籠設置 ソテツ植栽

4月・第14回桜まつり中止

10月・視察研修(高福寺 清里)

### ○中原地区草刈

新大縄橋～親水公園右岸 年4回 60名 終了後は土手で懇親会



中原地区草刈

### ○下島地区草刈

新幹線～美里橋右岸 90名 年3回 10月の草刈後は防災訓練を実施。炊き出し物を食べながら反省会



下島地区草刈



秋の枝切り作業と草刈

## 2014(平成 26)年

- 3月 ・鷹匠橋公園にマツを植栽
- 4月 ・真土側階段護岸手摺設置
  - ・第 15 回桜まつり開催
- 5月 ・役員改選 岸 文雄会長就任
- 8月 ・アテックス刈馬王購入
- 11月 ・視察研修 (山梨リニア見学センター 石和温泉 箱根湯本南風荘泊)
- 12月 ・やわら橋～鷹匠橋桜堤 3 列 90 本の桜が平塚市景観重要樹木指定

### ○東中原地区草刈

渋田大橋～土井口橋～新川橋左岸 女性も含めて年 2 回



東中原地区の草刈

## 2015(平成 27)年

- 1月 ・刈払機 電線盗難被害
- 4月 ・第 16 回桜まつり開催
- 6月 ・窃盗犯逮捕
- 10月 ・視察研修 (伊豆修善寺 戸田葦山反射炉)

○大型草刈機稼働 36 日 草刈延べ 34 日 参加延べ人数 1,100 名

○県の草刈請負面積 112,730 m<sup>2</sup>に増加

○伊勢山地区草刈

新川橋～新大縄橋左岸 ボランティア多数 年 2 回 6 月は作業終了後に「アジサイを眺め楽しむ会」実施



伊勢山アジサイを眺め楽しむ会



渋田川クリーン作戦



## 2016(平成 28)年

- 2月 ・やわら橋倉庫盗難破損 被害なし
- 3月 ・豊田倉庫盗難 (福島からの寄贈電線)
- 4月 ・第17回桜まつり開催
  - ・第二ステージに雨よけテント設置
- 10月 ・視察研修 (小田原尊徳記念館 報徳博物館)
- 11月 ・鷹匠橋公園土留め拡幅作業
- 12月 ・第一ステージ桜倒木防止杭打ち作業

- 大型草刈機稼働 36日 草刈延べ34日 参加延べ人数 1,100名
- 各種保険契約 (生活補償保険 24名 自動車保険 草刈機保険 照明器具一式保険)
- 大島地区草刈
  - 土安橋～新幹線右岸 水利組合に委託 年2回 20名



大型テントの設置



大島地区小雨の中の草刈

## 2017(平成 29)年

- 2月 ・ポトマック孫桜植樹祭 出席者 49名 (鷹匠橋 平塚市総合公園 前鳥神社)
- 4月 ・第18回桜まつり開催
- 6月 ・第二ステージ土留め作業
- 10月 ・視察研修
  - (足立区都市農業公園 帝釈天 亀戸神社)
  - ・東屋前 生コン作業
  - ・第二ステージ～鷹匠橋 堤防土留め作業



アメリカ大使館の来賓とともに

## 2018(平成 30)年

- 2月 ・大縄橋脇広場開墾地剪定 置石 ソテツ植栽
- 4月 ・第19回桜まつり開催
  - ・東屋南の桜1本倒木

- 9月 ・視察研修（埼玉県巾着田 秩父まつり会館 秩父神社）
- 10月 ・台風 24 号で桜 8 本倒木
  - ・記念誌「渋田川 桜堤のあゆみ」編集委員会発足
- 11月 ・桜 アジサイ調査
  - （サクラ 523 本 アジサイ 1,359 株）

○大型草刈機稼働 36 日（稼働 216 時間）

草刈延べ 33 日 参加延べ人数 約 1,000 名

○プロムナード共同草刈

渋田大橋から新川橋右岸 新大縄橋～中原橋左岸  
各地区 3 名、年 3 回

○三菱ケミカル（株）従業員による渋田川清掃実施



倒木処理



地元企業の渋田川清掃

### 2019(平成 31)年

3月 ・カワズザクラ植栽（東屋南側）

4月 ・第 20 回記念桜まつり開催



カワズザクラの植栽